

おじいちゃんのめがね

和美が学校から帰ってくると、おじいちゃんとお父さんが、庭で植木の手入れをしていました。おじいちゃんは、和美の家の近所に、おばあちゃんと住んでいます。

「ただいま。おじいちゃん、こんにちは。」

「お帰りなさい、和美ちゃん。」

「お帰り。和美、おじいちゃんからのおみやげがあるぞ。れいぞう庫の中を見てごらん。」

「わあい。おじいちゃん、ありがとう。」

和美は、台所へ急いで、れいぞう庫を開けました。大きなイチゴのつた、おいしそうなケーキが入っています。和美は、紅茶を入れてケーキを食べました。

（ああ、おいしかった。ごちそうさまでした・・・。）

ケーキを食べ終わると、和美は、テーブルの上におじいちゃんのめがねケースがあるのに気がつきました。

（おじいちゃんのめがね、どんなふうに見えるのかな。ちょっとかけてみよう。）

和美は、めがねを取りだし、かけてみました。そのとたん、頭がくらくらつときて、めがねをゆかに落としてしまいました。あわてて拾うと、なんと、片方のつるが取れていません。

（こわしちゃった。どうしよう・・・。）

和美は、しばらく動けませんでした。ようやくとれてしまった方のつるを拾い上げ、ケースにそっとしまい、テーブルの上にもどしました。

「みちよちゃんの所に行ってきます。」

和美は、庭に向かってそう言うと、家を出て思い切りかけ出しました。

「ただいま。」

和美はドキドキしながら家に帰ってきました。

「お帰りなさい。」というお父さんとお母さんには、いつもと変わった様子はありませんでした。テーブルの上には、何ものっていません。和美は、ほっとむねをなでおろしました。

次の日、和美は、家に帰ってくると、ドアを開ける前に、家の中の様子をうかがいました。おじいちゃんは、今日はきていないようでした。

和美はドアを開けました。お母さんが出てきて言いました。

「和美、ちょうどいいところに帰ってきたわ。クッキーを作ったの。おじいちゃんとおばあちゃんの所へとどけに行ってちょうだい。」

和美の顔がくもりました。

「えっ、そんな。すぐに、宿題をやるうと思っていたのよ。それに……。」

「あら、めずらしいこと言うわね。でも、その前に行ってきた。和美は、きのう、おじいちゃんにクッキーをいただいたでしょう。」

和美は、お母さんからクッキーをあずかると、とぼとぼと歩き出しました。おじいちゃんの家までの道が、いつもよりずっと長く感じられました。

「こんにちは、おじいちゃん。」

「おお、和美ちゃんか。いらっしやい。」

おじいちゃんは、いつものように、にこにこして和美をむかえてくれました。

「あの、これ、お母さんが作ったの。クッキーよ。」

「それは、ありがとう。」

「おじいちゃん、きのうのことなんだけれど……。」

おじいちゃんは、和美の様子がいつもとちがうのに気づきました。

「どうしたんだね。」

「あの……おじいちゃん、あの、ごめんなさい。実は、わたし、きのう、おじいちゃんのがねをこわしてしまいました。ごめんなさい。ちょっとかけてみたら、落としちゃったの。」

おじいちゃんは、おどろいた顔をして聞いていましたが、やがてえがおになって言いしました。

「和美ちゃん、よく話してくれたね。勇気がいっただろう。おじいちゃんは和美ちゃんのその気持ちがあつてもうれいよ。だいじょうぶだよ。あのめがねは、つるがはずれやすくなつていてね、直してもらおうと思っていたんだ。だから、和美ちゃんのせいじゃないんだよ。」

「そうだったの。でも、おじいちゃんにあやまってよかった。」

和美は、スキップしながら家に帰りました。お母さんにも、おじいちゃんのがねのことを話そうと思いました。